

「植民地の叛乱」の構図

表題は朝日新聞 11 月 2 日夕刊、池澤夏樹「終わりと始まり」。何度も紹介してきたが、大切な問題提起なので、今回も抜粋して紹介しておきたい。

なぜ沖縄人が土人と呼ばれたのか？東京の政府や警察庁にあるのは、遠い植民地の叛乱という構図なのだ。八世紀の末、陸奥に新しい砦を造ろうとしたら、蝦夷が集まって反対と言って騒ぐ。鎮圧のために中央から五百名の軍勢を送る。そう教えられてきたから公務執行中の大阪の機動隊員は「土人」といった。「シナ人」という言葉も使った。そして松井一郎大阪府知事は「よくぞ言った」とばかりにこれを追認した。高江のヘリパッド建設に反対する理由を整理してみよう。1 沖縄はすでに過剰な数の軍事基地を負わされている。県民にすれば、もうこれ以上は 1 メートル四方でも基地を増やしたくない。今回の新設は北部訓練場の返還と引き替えと言うけれど、返ってくるのはもともと米軍が使っていなかった土地。朝三暮四そのままの欺瞞である。2 外交と軍事は国の専管事項と国は言う。それならば生活は国民の専管事項である。平穏に暮らす沖縄県民の日々を乱す権限は国にはない。日本国憲法第 25 条、「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」がこれを保障している。軍用機の騒音と事故の危険は明らかにこれに違反する。3 生態系への影響が大きい。やんばるの自然林の木を 2 万 4 千本伐って 4 ヘクタールの空き地を作る。やんばるの自然はまだ未知であり、ヤンバルクイナやノグチゲラのような新種がないとは言えない。これは沖縄県民がよく知っていることである。問題は内地の人たちの無知と無理解。「土人」発言はさすがに暴言として内地でも話題になった。多くの新聞が記事にしたし、テレビのワイドショーで取り上げるところもあった。おかげさまで大阪府知事の正直な発言が話を大きくしてくれた。しかし、そこまでののだ。後は下品な週刊誌が尻馬に乗って反対する人々を更に罵ったくらい。

この一件には(内地から言うところの)沖縄問題が集約されている。厄介なものは沖縄に持っていけばなんとでもなる。あそこは戦後 71 年間ずっと抑圧されてきたから抑圧慣れしている。騒ぐのは一部の活動家ばかり、内地の機動隊で押さえ込める。予算の分配を少し増やしてやれば県民もおとなしくなる。送電線さえ延ばせば、原発もみんな沖縄に集約できるのに。そう気づいたところで、また別の構図が見えてきた。泊も東通も柏崎刈羽も敦賀も美浜も大飯も伊方も玄海も川内も、実は高江である。米軍基地と原発はよく似ている。どちらもなくても済むもの、ない方がいいものなのだ。

平等という原理は自由や友愛と並んで近代国家の基本理念である。機動隊の「土人」発言は国としてみっともない、とあなたは思わないか。 (2016 年 11 月 10 日)

